

春の彼岸によせて

平成二十五年三月 大乘寺 住職 岡 光俊

他人事という言葉があります。自分のことではない、自分には関係ないという意識の状態を指し示しているのでしょう。

では、皆さまはご自身のこと、夫婦のこと、子供のこと、ご両親のこと、兄弟のこと…どこから他人事となるのでしょうか。

十代から八十代の方々のお話を聞かせて頂いて感じたことですが、兄弟のことを意識できているかたは、年齢が上がれば上がる程、他人事になっていくようです。しかし、一時的に他人事にならない一瞬があります。

親が亡くなり財産分与のときだけ自分事になります。

ご両親のことを意識できているかたは、親にお世話になっているときは、口では感謝といっているかたは、親のお世話をしなければならなくなるると他人事になります。しかし親に相当の財がある一部のかたは、何故か遺言が作成されるまで自分事になり、その日を境に他人事になります。また、親が自分の名前や顔を覚えてくれているあいだは自分事ですが、認知できなくなった日を境に他人事になります。

子供のことへの意識は、母親と父親とは違うようです。

母親は自分事として私有物にし、父親は他人事として義務感で間接的に関わっていくかたが多いようです。

夫婦のことは、新鮮なあいだは自分事ですが、問題が一つ、二つと増えるごとに他人事に向かって一気に加速します。

自分自身のことに対して、自分事として今日まで目標を持って努力を重ねてきた人もおられますが、そのようなかたはごくごく希

でした。

自分のことを考えたこともない人、欠点は解っているが改善策を知らない人、なるようになるかと楽観している人、健康管理を助言されても努力しない人、ご自身とはと質問をされて、たまたま今ある自分を探そうとする人、自分自身のことであっても他人事にしていることに気づいておられないかたがあまりにも多いことに驚きます。

その日の出来事、それに対しての自分の言動や感情を振り返り気づき、反省し、より正しい心のありかた、言動を学び身につけていく日々を送られているかたをお釋迦さまは自分事の生きかたと申されています。

毎日が、気づき、学び、積み重ね、成長、感謝の日々となるかたです。

夫婦のこと、子供のこと、ご両親のこと、兄弟のこと等を自分のこととして真剣に向き合おうとしているご自身がそこにいますか。

春の彼岸、

ご自身に今一度問いかけてみませんか。

ご自身の中で自分のことも他人事にできてしまっていないませんか。

ご先祖さまのことを自分事として心から大切にされるかたは、すべてのことを自分事とされていくかたでしょう。